

令和2年度 第2回ユニバーサル都市・福岡推進協議会 議事要旨

1 日時：令和3年3月30日（火） 13時30分から15時30分

2 場所：オンラインにて開催

3 出席者：

荒牧委員、猪野委員、定村委員、シグデル委員、張委員、関根委員、平井委員、松浦委員、吉住委員

4 開会

5 議題

(1) 令和2年度の取組み実績について

○委員からの主な意見

- ・福岡版ユニバーサルマナー検定について、10代～20代の若年層の受講率が40代～50代と同じくらい多かったことが良かったと思う。「若いうちに正しい知識を身につける」ということを、もっと普及できれば良いのではないかな。
- ・企業・団体向けホームページに掲載しているムスリムの方への配慮について、外国人にとってはとても良い取組みだと思う。
- ・福岡版ユニバーサルマナー検定について、受講者の満足度がとても高いのが、非常に良いことだと思う。また、市職員研修についても多くの方が受講したのが素晴らしいと思うので、ぜひ進めてほしい。Instagramの投稿キャンペーンについては、福岡市内の「素敵なユニバーサルデザイン」を老若男女いろいろな人たちに投稿してもらったら良いと思うので、再度、投稿キャンペーンを実施してほしい。
- ・若い世代のコミュニケーションツールも活用するなど、情報発信手段を多極化することはとても大事なことだと思う。また、福岡版ユニバーサルマナー検定や市職員研修受講者に対して受講後のフォローをすると良いのではないかな。企業・団体向けホームページについては、市役所内の取組みも紹介すると良いのではないかな。
- ・市職員研修を受講した職員の、研修を通して具体的に変わった体験などを発信、共有していくと良いのではないかな。また、昨年は新型コロナウイルスに関連した給付金などの申請手続きの機会が多くあったが、ハードルのある方も申請しやすくなる取組みを行うなど、具体的などころでユニバーサル都市・福岡の精

神が息づくの良いなと思う。

- ・情報保障としてのユニボイス導入実績などについては、市民が知ることが大事なので、ホームページなどで広報したら良いのではないかと。また、市民に分かるように周知することで、認知度や理解度が進むと思う。

(2) 令和3年度の取組み（案）について

○委員からの主な意見

- ・福岡版ユニバーサルマナー検定を受講し、福岡市の取組みもうまく取り入れて非常にいい内容であったが、障がい当事者が参加したときの情報保障に関して、もう少し対応してもらいたい。また、福祉避難所については、障がい当事者にとっては前もって情報を知ることが命を守る一番の手立てとなるため、一緒に考えていくと良いのではないかと。
- ・地域のデジタル化支援事業について、視覚、聴覚障がいがある方を含めていろいろな方が使えるようなオンライン申請のアドバイスができればいいと思う。
- ・避難所の運営者側に女性の割合を増やすことが、誰もが生活しやすい避難所になるために必要だと言われており、災害弱者になりやすい立場の人たちの生活に配慮するためにも、避難所運営の意思決定に女性を入れると良いのではないかと。また、一般の避難所でもきめ細やかな運営ができれば、福祉避難所に行かなくても過ごせる層が広がるため、一般の避難所運営をユニバーサルに変えていくと福祉避難所の今後のあり方の検討もスムーズになるのではないかと。
- ・福岡版ユニバーサルマナー検定について、企業向けのPRに注力したら良いと思う。また、「福岡検定」のように、合格者に市の施設の優待サービス券を交付するなどのインセンティブを設けると、より普及につながるのではないかと。
- ・フェスティバルと福岡賞について、感染症対策を施せば対面での開催も可能ではないかと思う。そのため、対面でも遠隔でも対応可能な柔軟性をもった提案を募集したら良いのではないかと。また、各部局の取組みについて、様々な人を繋ぐなど、ユニバーサルデザインの視点から我々でできることがあるのではないかと。
- ・50代60代で障がいを持つ人たちが増えており、いかに彼らに定年まで働いてもらうか、ということが日本の課題にもなっているため、障がいのある人の管理職率を上げることを、行政も企業もユニバーサルデザインの指標のひとつにしてはどうか。福岡賞については、オンラインで実施してはどうか。
- ・ユニバーサル都市・福岡は2011年からスタートしており、来年度は10年目の

節目となるため、フェスティバルを実施してほしいと思うが、実施方法についてはこの時代ならではのやり方がある。普段なかなか出かけられない方もオンラインであれば参加可能ではないか。

- ・また、トイレステッカーについて、公共施設で貼付されていないところがあるため、もっと広報した方が良いと思う。

6 意見交換

○委員からの主な意見

- ・コロナ禍特有の課題として、コミュニケーションを取りづらくなっていることがある。マスクにより顔の表情を読み取れないことから、医学的にも小さなお子さんにとっては感情のコミュニケーションにおいてあまり良くない影響があるとされており、マスクをしていても相手に感情が伝わるような表情や心遣いが大事だと思う。また、障がい当事者も、そうでない方も、正しい知識を共有することでサポートに関する心理的バリアが取り除かれるのではないかと思う。
- ・裁判所においても、障がい者への合理的配慮への取組みが必要ではないかと思う。
- ・行政とは、市民に意思決定をするための情報を提供し、このまちで幸せに暮らし幸せに年を取っていくことを支援する、市民に対する最大のサービス産業である。そのためのユニバーサルデザインを福岡市でも磨いてほしい。
- ・福岡市の取組みを SNS で発信すると、ユニバーサルデザインの認知度だけでなく、その取組みも評価されるため、成果指標が上がると思う。また、SDGs というテーマを来年度入れたらどうか。
- ・区役所での住民票取得について、日本語では難しい外国人もいるので、英語で頼みやすいようにしてほしい。

7 閉会